

越後獅子祭り やくざ若衆 (1955)

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 B&W
時間 85分
初公開日 1955/02/13

【解説】

長谷川伸の小説『越後獅子祭』を「たん子たん吉珍道中」三部作の三村伸太郎と「大江戸千両囃子」の旗一平が脚色し「新諸国物語」五部作の萩原遼が監督した股旅もの。中村錦之助が初めてやくざを演じた記念すべき一作。

幼いころ貧しい父に手放された越後片貝生まれの半四郎は、角兵衛獅子に預けられ十数年が経ち、今はやくざ渡世に生きている。父を訪ねて旅をしていた半四郎は、道中でやくざ嫌いの呉服商人の越後屋新右衛門と出会う。実は新右衛門こそ半四郎の実の父親なのだが、二人ともそのことに気づいていなかった。越後へ行商に行く伝兵衛の娘お小夜は半四郎に恋心を抱くが、彼女はいかさま師の彌十に追われていた。そのお小夜が浅井という侍にさらわれてしまい、半四郎は彼女を救い出そうとするのだが…。

【クレジット】

監督 萩原遼
企画 福島通人
原作 長谷川伸 「越後獅子祭」
脚本 三村伸太郎
旗一平
撮影 藤井春美
美術 吉村晟
音楽 木下忠司
出演 中村錦之助
高千穂ひづる
千原しのぶ
薄田研二
原健策
加藤嘉
吉田義夫
山茶花究